

ばら通信

2010.3.16発行

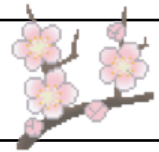
〒010-1638 秋田市新屋表町8-5

☎018-828-7750 Fax018-828-8185

社会福祉法人グリーンローズ 「ことば」の教室
オリブ園

NEWS

ご卒園おめでとう!!



ご卒園おめでとう!!

3月は卒園の季節です。春に向かって雪の景色とお別れするように、新しい世界に向かいながら、ここで出会った方々とお別れする子どもたちもいると思います。ここで出会った子ども同士、親同士、心を通わせ、これからも交流を続けていってもらいたいと願っています。私たちもまた、何かお役に立てることがあれば、相談や、学校に赴くつもりですので、何でもご相談下さいますようお願い致します。

私たちも、新しい年度実向かって、少しずつ若い先生方に今の仕事を伝達していきたいと思っています。制度は、新しい方向を向こうとしています。それは、まさしく共生の方向です。一日も早く、共生の学校に、共生の社会に向かうことを願っています。まだまだ多くの困難がありますが、自分たちの意志をしっかりとうち出せるように、手を携えていきましょう。以下の浜田寿美男先生のことばを添えて、卒園に際しての贈ることばと致します。

オリブ園施設長 後藤 進

「私」をめぐる冒険

浜田寿美男 2005 洋泉社

子どもの発達や育ちということばには、ある一定のゴールに向けて力を伸ばし、将来に向けて真っ直ぐに上昇していくというイメージがあります。ですから、私たちおとなは、子どものことを考えるときに、さまざまな経験や、能力の獲得を目指した訓練を与え、それによってできるだけ早く、できるだけ効率的に、目標に近づかせようとしがちです。

私たちおとなは、これまで自分が獲得してきた能力によって、基本的に自力で生きていると思っていますから、できることが当たり前になっていて、子どもを考えるときにも、いまの自分の視点から、まだできない子どもの地点を逆向きに見てしまい、子どものいるゼロの地点というものを考えることが、あまりありません。

例えば、自分の子どもの育ちに目を向けるとき、私たちには、この子は、これこれのことがまだできないというふうに、できる状態からの引き算で見えてしまいがちです。一歳のお誕生を迎えたのにまだ歩けないとか、ようやく歩けるようになったけれどまだしゃべらないとか、あるいは、大きくなったのに一向に読み書きができないとか——つまり、子どもというものを、身につけてしかるべきさまざまな能力の、欠如体として見えてしまう傾向があるのです。

私には、自分が発達の問題を考えるようになったそもそものはじめから、そういった常識に対する強い疑いがありました。できあがったおとなの地点から子どもを見るという視点にとらわれていると、見るべき大事なものが見えなくなってしまうのではないかと思います。

人間は、遡ってみると、最初は誰でも一個の受精卵に過ぎません。つまり、意識的な目標など何もない、ゼロの地点からスタートしているわけです。そして、獲得したものの上にさらに獲得したものを突きあわせながら、その場その場を、何とか生きていきます。

ですから、子どもの問題を考えるときには、いつもそこに立ち戻る視点をもつ必要があります。いい方が少し綺麗になりますが、育ちにあるのはプラスだけ、マイナスはないと考えたほうがよいように思うのです。そうしないと見落としてしまうものがありますし、逆にいいますと、そうすることで、私たちおとなのことについても、よりよく知ることができるはずだと思うのです。

私たちがついつい忘れてしまいがちなことが、しっかりと書かれていると思います。若いときから、こうした常識に強い疑いを抱いていたことに本当に敬意を表します。欠如体を深めて学問的な世界に入っていくとする人たちのあまりに多い世界を、浜田先生のように振り返る必要があるのではないのでしょうか。(後藤)

これまでと同様、子どもさんとご家族の立場にたった支援を続けていきたいと思っておりますので、
よろしくお願い致します。

何かありましたら誰にでも連絡・相談

E-mail olive@kodomo-sekai.com
ホームページ <http://www.kodomo-sekai.com>